

ラフティング世界選手権 2017 10月3日(火)～9日(月)

いよいよ開幕!!

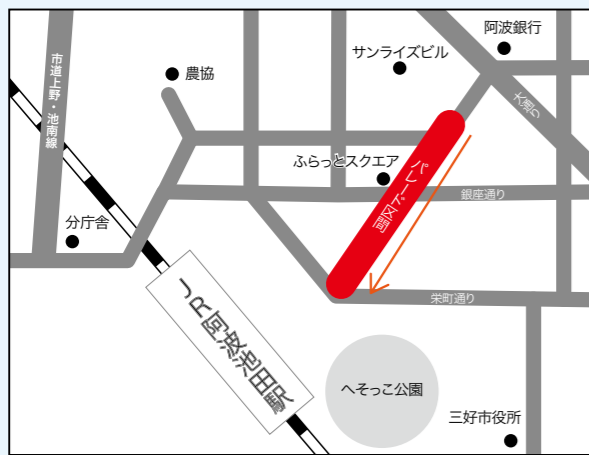
「みんなで応援しませんか?」

ラフティング世界選手権 2017 オープニングパレード

平成 29 年 10 月 3 日 (火)
15 時 30 分～16 時 30 分
サンライズビル前から JR 阿波池田駅前まで

タイムテーブル

15:30 **オープニングパレード**
自衛隊第14旅団音楽隊による演奏と
すだちくんや妖怪たちがお出迎え、22
か国 71 チームの選手、三好市長など
が歩いてパレード (予定)



※15時30分～16時30分までの時間、駅前商店街は車両の通行ができませんのでご了承ください。



地元吉野川で日本初の世界選手権

自然あふれる三好市で、今年10月に国内初となるラフティング世界選手権が開催されます。競技会場となる吉野川は、激しい流れが特徴的で国内でも有数のラフティングスポットとして知られています。ラフティング世界選手権はレースラフティングにおける世界最高峰の大会であり、22か国71チームが参加予定となっています。

コマースラルフティングからレースラフティングへ

もともとコマースラルフティング(ラフティング業者が行うラフティングツアーのこと)が盛んなこの地域で、ラフティングレースが開催されるようになったのはちょうど10年前。大歩危リバーフェスティバルが2007年5月に開催されました。吉野川をベースに活動しているザ・リバーフェイスやテイケイなど国内トップチームと共にラフティングツアーのリピーターの方々や地元住民の方で結成されたチームも参加するアットホームな大会として開催されてきました。

世界選手権開催決定

世界選手権誘致の機運が高まりだしたのが2014年頃。世界選手権を誘致して「ウォータースポーツのまち」としてさらに飛躍をしたい地元三好市の住民の動きに三好市長も誘

致に前向きな姿勢を示し、国際ラフティング連盟(IRF)に2017年のラフティング世界選手権開催に立候補の書類を提出したのがこの年の年末。翌年の2015年6月に行われたラフティング日本選手権にIRF会長のジョー・ウィリー・ジョーンズ氏が視察に訪れ、2017年の世界選手権開催決定を宣言しました。日本にとって念願だった世界選手権開催。2005年に群馬県みなかみ町が開催を目指して立候補しましたが、この時は韓国に破れ招致に失敗していた過去もあり、日本初開催決定に地元も日本のラフティング界も多いに盛り上がりました。

日本代表選手が出揃う

2016年10月に世界選手権プレ大会が開催され、このレースは2017年の日本代表チームの選考を兼ねたレースで年齢別に6チームが代表権を獲得しました。運営面としては大会直前の台風接近により大会スケジュールやレースコースの変更を余儀なくされ、また観客やカメラマンの対応など本大会に向けた課題も多く上がりました。2017年5月に行われた第10回大歩危リバーフェスティバルで、決まっていなかった2つのカテゴリーの日本代表チームが選出され、年齢別全4カテゴリー男女の日本代表チームが出揃いました。

大会 スケジュール

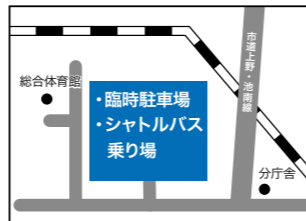
【日程】 10月3日(火)～9日(月・祝)
【競技会場】 四国・吉野川中流域(徳島県三好市山城町、高知県長岡郡大豊町)
【主催】 国際ラフティング連盟(IRF)、三好市
【共催】 日本レースラフティング協会(JRF)、大豊町
【主管】 ラフティング世界選手権実行委員会
【お問い合わせ先】 三好市役所ラフティング世界選手権推進室
 (☎ 72-7628、ホームページ <http://wrc-2017japan.com/>)
 ※天候などの影響により変更となる場合があります。

日程	時間	カテゴリー	内容	場所
10月3日	9時～14時30分	全カテゴリー	公式練習(スプリント、H2H)	カシの瀬
	15時30分～16時30分	全カテゴリー	オープニングパレード	JR阿波池田駅周辺
	17時～19時		オープニングセレモニー	三好市池田総合体育館
4日	9時～14時	オープン・マスターズ	公式練習(スラローム)	イド瀬
	9時～14時	ユース・ジュニア	公式練習(スラローム)	堂床
5日	9時～12時	オープン・マスターズ	公式練習(ダウンリバー)	West-West～川口
	14時～16時	ユース・ジュニア	公式練習(ダウンリバー)	豊永～土佐岩原
6日	8時～10時30分	全カテゴリー	競技(スプリント)	カシの瀬
	11時15分～16時		競技(H2H)	カシの瀬
	16時30分～18時		表彰式(スプリント、H2H)	West-West
7日	11時～15時	ユース・ジュニア	競技(スラローム)	堂床
	16時～17時		表彰式(スラローム)	West-West
8日	10時～14時	オープン・マスターズ	競技(スラローム)	イド瀬
	16時～17時		表彰式(スラローム)	West-West
9日	9時～10時	オープン・マスターズ	競技(ダウンリバー)	West-West～川口
	11時30分～12時30分		表彰式(ダウンリバー)	West-West
	13時～14時	ユース・ジュニア	競技(ダウンリバー)	豊永～土佐岩原
	17時～21時	全カテゴリー	表彰式(ダウンリバー/ユース・ジュニア総合) クロージングセレモニー	三好市池田総合体育館

ラフティング世界選手権 2017 大会期間中の無料シャトルバスのご案内



ラフティング世界選手権 2017 開催期間中(10月3日～9日)、リバー
 ステーション West-West をはじめ、競技会場周辺への自家用車の乗り
 入れはできません。大会期間中、会場までの無料シャトルバスを運行いた
 します。観戦の際はご利用いただきますようお願いいたします。



臨時駐車場

【場所】 三好市池田総合体育館横
 (徳島県三好市池田町マチ 2551-1)
【駐車可能台数】 約 300 台(無料)
 ※競技会場周辺まで約 30 分

無料シャトルバス経路(予定)

- ① 三好市池田総合体育館横⇔競技会場 (West-West など)
 - ② JR 大歩危駅⇔競技会場 (West-West など)
- ※ JR 大歩危駅には駐車スペースはございません。

ラフティング世界選手権 2017
 オーガナイザーの
 池田さんに聞く!

世界選手権の 見どころ

～各カテゴリーの注目チーム～

ユース (15歳以上 19歳以下)

このカテゴリーは毎年優勝チームが入れ替わっています。どこの国も高校生アスリートが中心になります。日本代表チームの男女 TRAKT は地元の中高生を中心に結成されたチームです。始めたころは1分漕いで悲鳴をあげていた選手たちでしたが、今では自分たちの力で吉野川の激流も下れるまでに成長しました。生まれ育った地元を盛り上げたいと男女とも優勝を目指して猛練習中です。

ジュニア (15歳以上 23歳以下)

年々レベルが上がっているこのカテゴリー。オープンのチームにひけを取らないパフォーマンスを見せてくれます。男子代表チーム TAMA は過去にも世界選手権に出場経験があり、2014年2015年の世界選手権で総合3位に入っていて今年はこのカテゴリー初の総合優勝を目指しています。女子代表の BLOOM も昨年の世界選手権に出場し総合3位。新潟県の信濃川で練習を積みこちらも初優勝を目指しています。

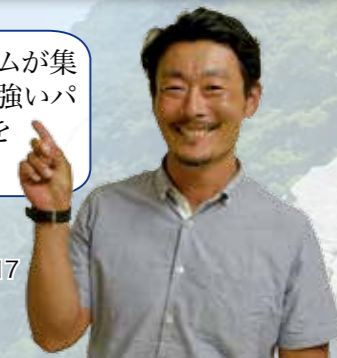
オープン (全年齢※15歳以上)

もっともレベルが高いのがこのカテゴリー。男子はブラジルが4連覇中。他にチェコ、ロシア、ドイツなどのヨーロッパ勢、ここ数年で急成長しているアルゼンチンなどトップ争いは熾烈を極め混戦が予想されます。強豪ひしめく中、世界に挑む日本代表がラフティングチームテイケイ。2011年以降の王座奪還を目指しています。女子は世代交代をスムーズに成功させたイギリスが去年に続いての連覇を狙う。さらに過去最多優勝回数を誇るニュージーランド、昨年準優勝の古豪チェコも優勝争いに絡んできそう。日本代表は吉野川をホームにしている THE RIVER FACE。チームとして節目の結成10年を迎える今年、地元開催の今大会で彼女たちの最高のパフォーマンスを地元の数多くのファンが期待しています。

マスターズ (40歳以上)

40歳以上のこのカテゴリーは往年のトップ選手たちがいぶし銀のパフォーマンスを見せてくれます。男子では日本代表 R 6 Masters が優勝最有力候補。カヌースラロームでオリンピックに出場した選手をはじめ、フリースタイルカヤック・SUP・アウトリガーカヌー・ラフティングとさまざまなパドルリングスポーツで日本代表を経験してきたアスリートが集結。メンバーの半分は吉野川をホームにしていることもあり大いに期待されています。女子の強豪はニュージーランド、チェコ、ノルウェー。日本代表 Sakula は吉野川をホームとするリバーガイドを中心としたチーム。長年吉野川を熟知した地の利を生かし上位を狙っています。

各カテゴリーで世界のトップチームが集まる世界選手権。激流の中を力強いパドルさばきで下っていく選手たちを間近に見られるチャンスです!



ラフティング世界選手権 2017
 オーガナイザー
 池田 拓也 さん



大会中のカメラ撮影注意点

ラフティング世界選手権 2017 において、安全なカメラ撮影や映像権利、プライバシーの保護を確保するため、以下のことを守ってください。

- ① カメラ(ビデオ、写真)で撮影しようとする方(事業者、個人を問わない)は、事前にラフティング選手権実行委員会事務局(以下「事務局」)に届け出をし、許可を取ってください。
- ② 競技会場において、撮影しようとする方は、ヘルメット、ライフジャケットを着用し、担当者の指示に従ってください。
- ③ ヘルメット、ライフジャケットについては、事務局が定める協力費を納入することにより、貸与することができます。
- ④ 撮影許可された区域以外での撮影、競技中の選手に対するストロボ撮影は禁止します。

【期間】 10月3日(火)から10月9日(月)まで

【場所】 ラフティング世界選手権 2017 の競技会場および三好市池田総合体育館

【届出締切】 9月29日(金)まで

THE RIVER FACE/ ザ・リバーフェイス (オープン女子)

2007年結成。その後、メンバーの入れ替わりやチーム名の変更を経て、現在はメンバー全員が吉野川中流域(三好市・大豊町)に在住し、ラフティングカンパニー勤務のリバーガイドを中心とした8名で活動。これまでの世界選手権でも数多く表彰台にのぼるなど世界大会での実績は充分。今回の世界選手権では、これまでの経験と地元開催という利点を生かし、地元を中心とした多くの応援を胸に、チームが目標に掲げる6人制で初の「世界一」を目指す。

日本初開催の世界選手権をここ吉野川でできるということ、本当に嬉しく思います。地元をはじめ、日々私たちを応援し支えてくださる方々と勝利の喜びを共有できるよう全力ががんばります。



三好市から出場チーム

世界選手権に出場する日本代表チームは、THE RIVER FACE (オープン女子)、テイケイ (オープン男子)、SakuLa (マスターズ女子)、R6Masters (マスターズ男子)、BLOOM (ジュニア女子)、TAMA (ジュニア男子)、TRAKT (ユース男子・女子) です。三好市を拠点に活動するTHE RIVER FACE、TRAKTをご紹介しますとともに、各チームから世界選手権に向けての意気込みを聞きました。

TRAKT/トラクト (ユース男子・女子)

三好市でのラフティング世界選手権開催に向け、市内中高生を中心に結成された「三好ラフティングチーム TRAKT」。チーム名は「TRAKT (トラクト)」の由来は、T=Tokushima, R=River, A=Amusement, K=Know, T=Teamの頭文字。徳島の川の楽しさを知っているチームという意味が込められている。地元を元気に、そして市民全体で丸となってラフティング世界選手権2017を盛り上げていきたい。そのために私たちができることは精一杯漕ぐこと。地元・吉野川で開催されるラフティング世界選手権に日本代表として出場できる喜びと、たくさんの方々に支えられているという感謝の気持ちを忘れず総合優勝を目指す。

私たちが支えてくださるたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、世界選手権ではチームメンバー全員の目標である世界一を目指し、精一杯戦ってきます。応援よろしくお願いします!

僕たちは10月の世界大会で優勝するために練習を積んできました。世界大会では支えてくださっているたくさんの方々への感謝の気持ちを持ち全力で最後まで漕ぎきり世界一になります。応援よろしくお願いします!

今回は6年ぶりの世界大会です。これまでオーストラリア代表、日本代表として参戦し、男子オープン部門にて2回の優勝経験があります。その経験を生かし地元三好市で3度目の頂点を目指します!



八木澤 慶太 さん

R6Masters/ アーリックスマスターズ (マスターズ男子)

国内初開催のラフティング世界選手権にて優勝するために結成されたチーム。チームメンバー全員がラフティングはもちろんのこと、カヌーやカヤックなどほかのパドルング競技でも国際競技大会への出場、入賞経験が豊富である。このチームの強みは何と云っても「この個々の能力の高さ」と「豊富な経験量」である。いつも応援してくれている家族、そしてチームを応援、支援してくださっている方々のために、大舞台で激漕を誓う。

三好市在住の 出場者

PRINT

1艇ごとに短距離(約300m)のタイムを競う「スプリント」。大会では、一番初めに行われる競技。



2艇が同時にスタートする短距離トーナメントの「H2H (ヘッド・トゥ・ヘッド)」。この種目は、スタートダッシュが勝負の鍵を握るため、レース開始直後に互いのボートやパドルが激しくぶつかりあう。

H2H

競技紹介

競技ラフティングは、国際ラフティング連盟のルールに準じて、スプリント、H2H、スラローム、ダウンリバーの4種目が行われます。各種目の最大獲得ポイントは、スプリントは100ポイント、H2Hは200ポイント、スラロームは300ポイント、ダウンリバーは400ポイントあり、4種目の総合獲得ポイントで総合優勝が決定します。



長距離を下ってタイムを競う「ダウンリバー」。4種目の中で花形種目。オープンとマスターズが約8km、ジュニアとユースは約4kmを下り、大会のフィナーレを飾ります。

DOWN RIVER

S LALOM

規定のゲートを順番通りに通過し、タイムを競う「スラローム」上流から抜けるゲートと下流からさかのぼるゲートの2種類があり、通過できなかったり接触した場合は、ペナルティの対象となる。

